

# 始動！地方創生プロジェクト⑤

## 地域資源の有効活用を目指して

### 馬を活用した体験型農場の可能性調査(Ⅱ)

郷土の様々な地域資源を町の活性化に役立てる可能性を探る、2つの地方創生事業が始動し2年目の今年、3つの柱で構成している『積丹の気候風土を生かした「スプリッツ(蒸留酒)開発」によるしごと創生事業』の中の、体験型農場等整備についてお知らせします。



▲ポニーふれあい体験会(8月26日・小泊海岸)

#### 馬と共に町の魅力を探る 体験型農場の可能性

旧積丹牧場を活用したこの事業は、大きく2つあります。

一つ目は、馬を入れた体験型農場としての可能性調査です。今年も道産馬「どさんこ」を含む5頭の馬が旧積丹牧場に入っています。これは、馬が荒れた農地の雑草を食べ、ひづめで耕しながら、圃場としての再生を目指すものです。

乗用馬1頭、馬車馬1頭を導入し、乗馬・馬車体験のほか観光事業者と連携しながら体験プログラム企画検討と、馬1頭を通年放牧し、冬季間の活用方

策についての検討を行います。

また、馬の休憩施設や運動施設のほか、イベント等、実施の際の管理棟の仮設を試みます。

事業化に向けた課題の検証に必要な様々な企画を練っており、ので、ぜひ馬たちとの触れあいにお出かけ下さい。

#### ポタニカルの生産 見せる農場の整備

二つ目は、蒸留酒ジンに不可欠なポタニカルを生産する圃場造りです。昨年、フェネル・ミント、ミヤマビヤクシン、ハーブなど18種類を植え、この土壌での生育状況を生かして、今年度も種苗を購入し、「積丹GIN」の原料畑と観光農園への展開の可能性調査を検討していきます。

そのためのポタニカル植栽イベントを実施する予定です。改めて町民の皆さんにもご案内し

#### 【平成29年度計画内容】

事業名	事業内容
<b>(1) 積丹GIN開発</b>	
①積丹GIN開発等事業	・スピリッツ開発 ・蒸留施設の立地及び設備に関する調査 ・民間会社定款原案及びCI作成 ・真空包装機購入 ・酒類製造免許申請原案の作成 ・マリアージュ開発
②自然公園遊歩道等検討調査業務	・積丹町自然公園遊歩道等検討調査委員会により自然公園遊歩道の活用と整備の方向性を検討し、整備構想を策定
③自然資源探査備品(ドローン)購入	・岬に植生するポタニカルの調査、現状把握 ・遊歩道整備ルートの可能性調査
<b>(2) マリアージュ食材開発</b>	
①保護水面PR映像制作業務	・保護水面PR動画制作(春・夏素材映像撮影、編集作業) ・視聴覚設備整備(テレビ、デジタルプレーヤー購入など)
②水産資源回復対策事業	・産卵水路(馴致施設)改良整備 ・階段魚道改良整備 ・枕蛇かご増設設置
③漁業系廃棄物資源利活用推進事業	・ウニ殻のタブレット錠剤作製 ・農地での作物生長試験(トマト、カボチャ、ニンニク等) ・海域での海藻施肥実証試験
④水産資源付加価値向上対策事業	・陸上水槽を活用したウニ飼育予備試験 ・既製活魚水槽のウニ給餌型水槽への改良検討
<b>(3) 体験型農場等整備</b>	
①種苗購入	・ポタニカル(セイヨウネズ、ミヤマビヤクシン、キハダなど)苗木購入
②木育講演会	・町民対象とした木育に関する講演及び木工教室
③体験型農場等整備事業	・圃場管理(土壌改良含) ・体験型プログラム企画・実施 ・林間放牧馬 ・乗馬体験 ・馬車体験 ・厩舎、体験拠点施設レンタル
総事業費：75,500千円	

ますので、ぜひご参加ください。

また、広い旧牧場での馬・畑・農園それぞれの活用スペースを定め、「見せる農場」としての全体的な土地の活用計画等も検討されます。

今年度の体験型農場等整備事業は、どさんこミュージゼ(七飯

町)に業務を委託し実施します。

また3名の地域おこし協力隊(体験型観光農場支援員)が、現在、馬の調教、管理方法などの知識・技術の取得に取り組んでいます。



B&G 野外体験プログラム

## 自ら学ぶ

今年もB&G海洋センターでは、町内各小学校の夏休みを利用して様々な取組が行われ、参加した児童はそれぞれに夏休みの思い出をつくりました。

7月27日・28日の2日間は、夏休み「朝活どう場」が行われ、各自持ち寄った宿題を進めるなど自発的な学習に取り組んでいました。

また、「B&Gジュニア水

泳教室」が7月26日から28日の3日間実施され、1年生から6年生までの児童がそれぞれの泳力に合わせたグループで水泳指導を受けました。最終日には、「ニッパボード」(レスキューボード)体験が行われ、児童は緊急時に自分の身を守る「自助」の意識を高めました。

## 自立性を育む

7月31日・8月1日は、海洋センター前でテントを設営し、一泊二日で体験学習を行う『第3回少年教室「B&G野外体験プログラム」』が催され、34人が参加しました。

同教室では、児童自らコンクリートブロックで作ったかまどを用いての炊事、花火や肝試しなどが行われました。更に、小泊海岸ではライフセービングプログラムが実施され、参加した児童は体験学習を通じて仲間との共助の意識や、親から離れて生活する自立性を育みました。

また、防災意識の向上をめざす「B&G避難所体験プログラム」も同時開催され、今春配備された日産電気自動車を用いた体験が行われました。



ジュニアスイミングクラブ

使用した日産電気自動車や宿泊用テントなどは、今後も様々な取組の中で有効活用されます。

## 全道各地から水泳選手が集結

平成29年度B&G北海道ブロック・スポーツ交流交歓会「水泳の部」が8月6日、町B&G海洋センターで行われ、全道12市町村の海洋センターから小中学生合わせて111人の選手が参加しました。

開会式では、町ジュニアス

イミングクラブの西川亜依里さん(美国中2年)が選手を代表し力強く宣誓を行いました。

また、木田奈知さん(美国小4年)が小学生女子(低学年)平泳ぎ50mの部で1位に、西川亜依里さん(美国中2年)が中学生女子バタフライ50mの部で3位に入賞し、表彰状とメダルの授与を受けました。

の交流を深めました。

## 第3回町議会臨時会 議会ニュース

平成29年第3回町議会臨時会が8月3日に招集され、同日閉会しました。そのあらましについてお知らせします。

- 澁谷 俊一 (美国町)
- 山本 俊三 (美国町)
- 松葉 淳一 (婦美町)
- 高野 健治 (婦美町)
- 郷六 光幸 (野塚町)
- 酒巻 徹 (野塚町)
- 柳澤 茂明 (婦美町)

(同意)

### 議案第1号

農業委員会委員の任命について

先の農業委員の推薦・募集結果と関係機関からの意見聴取等を経て、新しい積丹町農業委員候補者8名を選定したので、法律の規定により、議会の同意を求めるものです。

美濃 寛 (野塚町)

### 議案第2号

積丹町一般会計補正予算(第4号)

日本海漁業振興緊急対策事業補助金、研修センター修繕費など725万円を追加し、29億1,101万5千円にするものです。

(原案可決)



# 神威岬灯台

「天下の絶景」と「1300年の歴史」を次の世代に！

## 道内2番目の「恋する灯台」に

一般社団法人日本ロマンチスト協会（長崎県）と日本財団（東京都）が昨年から共同で実施している2017年度全国「恋する灯台プロジェクト」に、神威岬灯台が選ばれ、8月24日、同協会の波房克典会長から町に認定証が贈られました。

恋する灯台とは、灯台を「ふたりの未来を見つめる場所」と定め、「ロマンスの聖地」として観光資源化するプロジェクト

ト。全国各地の灯台の中から、歴史や景観などを基準に行われ、今回、「積丹ブルー」の神秘的な青さや義経伝説などが評価され、道内2番目（全国31ヶ所）として神威岬灯台が選ばれました。

また夜には、ワークショップが開かれ、8人の町民が参加しました。これは、町ならではのデートスポットを選び、観光PR等に役立てるもので、島武意



海岸や宝島、町内の飲食店など10ヶ所が選ばれました。この10ヶ所は、新たな恋の聖地の観光パンフレットとして全国に紹介されます。

神威岬灯台は、開設130年の節目を迎えました。日本財団が行う「海と日本プロジェクト」では、松井町長が今回の「恋する灯台」の認定に際し

て、次のメッセージの全国への発信を同財団に託しました。

「練とソーラン節を生み、北前船を育んだ日本海。

海の無事を願い、今も灯し続ける神威岬灯台の宿舎跡の古びた礎石からは、新婚間もない灯台守が唄う「喜びも悲しみも幾歳月」が聞こえるような気がします。

悠久の時を経て今、積丹ブルーに浮かぶ馬の背の断崖の小道を行き交う、大勢の若い恋人たちの姿があり、奇岩奇石が連なる海岸線に沈む夕日が想い出の二人の誓いを祝ってくれます。

かけがえのないこの美しい北海道・積丹の海を、みんなで次の世代に引き継いでいきましょう。」

## 「どさんこ・子育て特典制度」を利用していますか？

道では、全道各地の企業や施設と連携して、社会全体で子育て家庭を応援しています。

この制度は、妊娠中の方や小学生以下の子どもがいる世帯が、全道の協賛店で買い物や施設を利用する際に、特典カードを提示すると、商品や飲食代の割引など様々な特典サービスが受けられます。

### ＜使用方法＞

・カード裏面に保護者（妊娠中の方も含む）と子どもの名前を記入し、子どもと一緒に外出するときにお使いください。

### ＜注意＞

- ・特典サービスの内容は、協賛店ごとに異なります。
- ・特典を受けられる協賛店には「協賛ステッカー」が貼ってあります。



### 【問合わせ先】

役場住民福祉課  
TEL 44-2113

びくに保育所  
子育て支援センター  
TEL 44-2250



▲協賛ステッカー